

最新高等院校日语专业系列教材

日语泛读教程（上）



吉林理工大学出版社

主审◎陈岩 崔香兰
主编◎佟玲 曲凤鸣 马莹
审校◎池上孝 荒井勇

高等院校日语专业系列教材

日语泛读教程 (上)



华东理工大学出版社

·上海·

主 审 ◎ 陈 岩 崔香兰

主 编 ◎ 佟 玲 曲凤鸣 马 莹

副主编 ◎ 刘子璇 邢文柱 张 蕾

张红艳 李顺英 李义楠

审 校 ◎ 池上孝 荒井勇

图书在版编目(CIP)数据

日语泛读教程(上) / 佟玲, 曲凤鸣, 马莹主编. —上海:
华东理工大学出版社, 2016.6

ISBN 978-7-5628-4484-6

I. ①日… II. ①佟… ②曲… ③马… III. ①日语-阅读教学-高等学校-教材
IV. ①H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2016)第 001466 号

策划编辑 / 王一佼

责任编辑 / 嵇 蕾

装帧设计 / 靳天宇

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

地址: 上海市梅陇路 130 号, 200237

电话: 021-64250306

网址: www.ecustpress.cn

邮箱: zongbianban@ecustpress.cn

印 刷 / 常熟新骅印刷有限公司

开 本 / 710mm×1000mm 1/16

印 张 / 11.75

字 数 / 234 千字

版 次 / 2016 年 6 月第 1 版

印 次 / 2016 年 6 月第 1 次

定 价 / 35.00 元

版权所有 侵权必究

前言

PREFACE

本套教材由《日语泛读教程(上)》《日语泛读教程(下)》两册构成,适用于日语专业泛读、大学日语阅读等课程教学,也可供广大日语爱好者自学使用。本套教材的编写以《高等学校日语专业本科教学质量国家标准》为依据,以培养学生的日语读解能力、思辨与创新能力、日语综合运用能力为宗旨,集中体现了能力培养系统性、题材选择广泛性、实践训练开放性等特点。

能力培养系统性: 本套教材的内容安排以读解能力的培养为主线,通过每课设置的【読解手引き】,以“如何理解文章主题”“如何获取隐藏信息”“如何把握副词在文章中所起到的作用”等专题形式由浅入深、循序渐进地针对读解能力的培养进行强化训练。

题材选择广泛性: 本套教材的内容选材涉及小说、评论、随笔、访谈等多种题材,内容经典,且篇幅及难易度适当。本书旨在通过广泛撷取各种题材的文章精华,提高学习者的日语阅读兴趣,拓宽视野,并进一步加深对日本社会及日本人思维方式的理解决。

实践训练开放性: 本套教材的实践训练部分设计了【応用問題】【実践問題】两项内容,其中【応用問題】参考“新日本语能力考试”读解题型设计,通过选择题的形式检验对课文内容的理解程度,而【実践問題】则是以培养学习者的发散性思维、创新能力、日语综合运用能力为目的而设置的开放性思考问题。

本套教材每册各设置 20 篇课文及 10 篇拓展阅读文章,建议课文部分教学学时为 2 学时,拓展阅读文章部分可以根据教学情况灵活调整。教材附录部分附有课文译文及实践问题答案。

本套教材编写过程中得到陈岩教授、崔香兰教授的大力支持,在此向两位专家学者表示衷心的感谢。

囿于编者水平所限,不足之处在所难免,恳切地希望各位专家、广大读者多提宝贵意见。

编者
2015 年 12 月

目 录

CONTENTS

第1課	テーマをつかむ〈裏窓の風景〉	1
第2課	中心内容をとらえる〈「耕す文化」の時代〉	7
	こうばしい日々	12
第3課	各段落の内容をつかむ〈批判的精神〉	15
第4課	語句の意味をつかむ〈子どもと自然〉	21
	日本語の「乱れ」と「変化」	27
第5課	指示語の内容をつかむ〈愛撫〉	31
第6課	接続関係を考える〈ことばの引き出し〉	37
	自然を恐れよ	44
第7課	日常語にも関心を持つ〈「こだわる」のは良いことか〉	47
第8課	ことわざ・格言〈まあまあのゆとり〉	53
	翻訳者の姿勢	58
第9課	心情を理解する〈幽霊〉	61
第10課	記述問題に慣れる〈本はどう読むか〉	69
	日本論の視座	75
第11課	主題をとらえる〈哲学のすすめ〉	79
第12課	人物の心理・感情を理解する〈風船の使者〉	85
	文明と野蛮	91
第13課	言葉への関心を深める〈日本語 表と裏〉	95
第14課	慣用句に慣れる〈われらが内なる「虫」〉	101
	情報化社会の問題	107
第15課	理由・根拠を確かめる〈天声人語〉	109
第16課	適切な副詞をさがす〈虫のいろいろ〉	115
	こころ	121

第 17 課	引用部分の把握〈幼年時代〉	123
第 18 課	比喩を味わう〈マルテの手記〉	129
	広く読もう 道を歩くということ	134
第 19 課	表現の奥を読む〈沖の火〉	137
第 20 課	適切な副詞をさがす〈西洋中世の愛と人格〉	143
	広く読もう 「痛み」とは何か	149
附录 1	参考答案	151
附录 2	参考译文	156
	参考文献	181

第1課 テーマをつかむ〈裏窓の風景〉

外山滋比古

【本文要約】

私(作者)は口笛でも吹きたいような気持のよい好天のある道である光景をみかけた。屋根に登って竹竿をもった女子学生が枝の柿を落とすと、その下の歩道にいる女子学生がそれを拾う。そこへ通りかかった二人連れの男の学生が二人とも柿をもらって立ち去る。その後ろ姿が如何にも明るく笑っているようであった。その若者の闊達さに私もつい微笑んだ。私はそのさわやかさが忘れられず、次の週にまた同じ所を通ったら、女子学生も男子学生もいないのにがっかりした。

【読解手引き】

テーマをつかむ——筆者が書こうとしたものは何か。

1. 随筆・小説における情景や人物の動きなどに関する具体的な描写に注意しよう。
2. それぞれの場面がどのように美しいイメージとなって読み手を楽しませてくれたのかを考えてみよう。
3. その場面で筆者が何に感動し、何を書こうとしたのかを読み取るう。

音羽の護国寺の前から目白のほうへ広い通りが延びている。昔、この近くに下宿していたころ、ここには都電が通るはずだったのに、何かの都合で実現しないのだという話を聞いた覚えがある。広々として気持のよい道だ。

それに天気も申し分がない。歩いているうちに、口笛でも吹きたいような気分誘いこまれる。

少し行くと、左手が日本女子大学で、塀の内側にある物置の屋根に女子学生らしい人が竹竿を持って登っている。

何をしているだろうと思って上を見て、①思わず息をのんだ。打ち上げ花火が空いっぱい傘を開いたときのように、枝もたわわに柿になっている。葉はすっかり落ちて、裸の枝についた赤い珠が、やわらかい秋の日ざしをいっぱいに浴びている。竿で柿をたたくと、落ちた柿が屋根を伝って塀の外の歩道へ転げ落ちるようになっている。

歩道にもう一人女子学生がいて、手にいっぱい柿をもっていた。

そこへ通りすがりの二人連れの男の学生がやってきて、そのうちの一人が屋根の上の女子学生に向かって、冗談半分に、僕にもくれませんかと言った。どうするかなと見ていると、彼女は、「ええ、いいわ。」と答えて柿をたたいた。歩道に落ちて転げた柿を二つか三つ、下にいた女子学生が拾うと、その男子学生へ差し出した。

男は、「ほんとうにいただいても、いいんですか。」と、②むしろ少しあわてている。女子学生は落ちついて、「ええ、どうぞ。」と言ったらしかった。もう一人の仲間の男が、「あれっ、うまくやってるな。そんなら僕にもくださいよ。」と言っている。結局、二人とも柿をもらって、大きな声でありがとうを言うと、そこを立ち去った。

二人の後ろ姿が明るく笑っているようであった。

ほんの一、二分のやりとりであったであろうが、いかにも屈託のない若い人たちの闊達さがさわやかであった。こちらもいつの間にか③口もとが少し緩んでいた。

夕方帰って、つかれたからソファに横になって、ぼんやり天井を眺めていると、昼見た柿の花火がまた傘を開いた。食後散歩していると、よく晴れた空の星の光が少し赤みを帯びていると思ったら、再び女子大の柿の木が現れた。

歩くにつれて、その柿も少しずつ後ずさりする。

次の週もまた同じ所を通った。竿が届かなかったのか、柿はまだたくさん残ったままであった。今日もよい天気だが、さすがに少し紅の色が濃くにぶくなったようである。今日は屋根の上にだれもない。もちろん、柿をくれという男子学生もない。なんだか少しがっかりして、足早にそこを通り過ぎた。

語釈

- ◆ ^{おとわ}音羽の^{ごこくじ}護国寺 **名** 東京都文京区の一地区。護国寺の門前から江戸川橋に至る地域。東京都文京区西部的护国寺。
- ◆ 息を飲む **短** はっと驚いて息をとめる。(因危険、惊吓而吓得)喘不上气,屏住气。
- ◆ たわわ **形動** おされてまがるさま。しなうさま。弯弯的。●枝も～に実がなった。/果实坠弯了树枝。
- ◆ 伝う **自五** ①ある物に沿って行く。ついて移る。顺着。●涙が頬を～。/眼泪顺着脸颊往下流。②点在するものを次々とたどって行く。沿着。●この川を伝って行けば駅に出られる。/沿着这条河走去,就会走到车站。
- ◆ ^{くつたく}屈託のない **形動** 心配のないさわやかなさま。爽朗,无忧无虑。●～晴れ晴れとした顔。/清爽的表情。
- ◆ ^{かたつ}闊達 **形動** (闊達さ=闊達だの語幹に程度を表す接尾語「さ」がついて、名詞化されたもの)度量がほろく、物事にこだわらぬこと。こせこせしないこと。开阔,豁达。●～な人。/豁达的人。
- ◆ あとずさりする **自サ** ①前へ向いたまま後方へさがること。后退,惊退。●馬が～。/马惊退。②尻ごみすること。退缩,畏缩。●そう～なよ。/别那么畏缩不前呀。

文法解釈

1. ～むしろ

(1) 与其……不如,宁可。

例文 ①人に聞くよりむしろ自分で考えてみたほうがいい。/与其问人,不如自己想想看。

②あの人は政治家と言うよりむしろ文学家と言ったほうがいい。/与其说他是政治家,不如说是个文学家。

(2) 倒,倒是。

例文 ①そう言われるのをむしろ喜んでいいる。/倒喜欢别人那样说。

②ぼくはむしろこう考える。/我倒是这样想。

2. 接尾語「さ」「み」的辨析

「さ」和「み」都表示程度和状态,但其表达的意思和含义是不同的。

例文 ①この本のおもしろさは読んでみなければ分からない。〈どれくらいおもしろいか〉/这本书多有趣,不读是不知道的。

②この絵にはおもしろみがない。〈面白いと感じられるもの〉/这幅画没有趣味。

辨析 「さ」表示抽象的程度。「み」表示主观整体印象、感觉。

応用問題

問1 本文のテーマの説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 若い男女のちょっとした心の交流を淡く表現した。
- B 柿をもらっていた小さな事件を見て、若さをうらやましく感じた。
- C 本当に秋なんだなあという気持ちをまとめた。
- D 「道」の描写を具体的にするために、柿をもらっていった場面を設定した。

問2 文中の①「思わず息をのんだ」はどんな感情を表現した言葉か。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 柿の実に自然の豊かさを発見しての感動。
- B 柿の実と女子学生の組み合わせに強くひきつけられる気持ち。
- C 柿の美しさに対する驚き。
- D 女子学生の屋根の上で柿を叩き落とす大胆さに対する驚異。

問3 文中の②「むしろ少しあわてている」は男の学生のどんな気持ちを表現したのか。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 見苦しいまねをしたと気づいての羞恥と困惑。
- B 予想外に好意的に伝えてくれたことに対する動揺ととまどい。
- C ちょっと図々しかったかなと思いはじめた自責と反省。
- D 気軽に伝えてくれたことに対する喜びと感激。

問4 文中の③「口もとが少し緩んでいた」は作者のどんな心境を表したのか、その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 若い人たちの闊達さを見て少し変に思った。

- B 若い人たちの闊達さを見て少し安心した。
- C 若い人たちの闊達さを見てつい感動した。
- D 若い人たちの闊達さを見てさわやかになった。

実践問題

【本文のポイント】

1. 私がどんな風景を見たか。

△ _____

△ _____

△ _____

△ _____

△ _____

△ _____

△ _____

2. 帰宅後私は何をしたか。

△ _____

△ _____

第2課 中心内容をとらえる〈「耕す文化」の時代〉

木村尚三郎

【本文要約】

「文化」は「耕作」のように、土地によって違う。無理やりに本来あるべき土地から切り離されると、植物と同じで、「文化」も本来の意味や味わいが変わり、精彩を失い、生命力を失ってしまう。これが「文化」というものの持つ最も大きな特徴、あるいは宿命なのだろう。だから、「文化」は、すべてが「地方文化」なのであって、「中央文化」などというものは存在しない。だからこそ、現在、どこにおいてもそうした地方的なものが求められるようになってきた。

【読解手引き】

中心内容をとらえる——核心部分ほどの段落にあるか。

1. 文章は何について書かれているのか、それがどうだと言っているのかを考えてみよう。
2. 前置きの部分、具体的な例及び補足的な内容をはっきり見分けよう。
3. 内容の核心部分が記されているのはどの段落かを見極めよう。

「文化」とは本来「耕作」の意味であった。そして「耕作」とは、土を耕し、作物を育てることである。耕し方は土地によって違う。山地と平地でも違うし、湿潤地帯と乾燥地帯でも違う。暑いところと寒いところとでも違う。だから、当然、作物も違ってくる。作物が違えば、食べ物も、食べ方も違ってくる。すなわち、そうした「食」に代表される土地ごとの生き方の形式が「文化」である。祭りや宗教、建築様式、芸能、物産、言語、風俗、習慣、歴史と伝統……。こうした、その土地土地に息づいている生き方の形式が「文化」の名に値する。

これは植物と同じで、本来、輸出することもできなければ、輸入することもできないものである。無理矢理に輸出しようとするれば、血が流れる。つまり、トラブルが起こるということだ。植物を別の土地に移植すると花の形が変わってしまったり、発育の様子が変わってしまったりするように、「文化」も本来の意味や味わいが変わってしまう。例えば、ヨーロッパで、あるいはアメリカで支配的なキリスト教も、日本へやって来ると、十六世紀後半の一時期を除いて、ほとんど大きな広がりを見せなかった。また、インドの仏教は、個人の精神の解放や自由を追求した宗教であったはずなのに、日本では祖先崇拜の宗教に姿を変えてしまった。

本来あるべき土地から切り離されると、とたんに精彩を失い、生命力を失ってしまう。つまり、無理矢理に他の地域に根づかせようとするると血を流す。これが「文化」というものの持つ最も大きな特徴、あるいは宿命なのだろう。

だから「文化」は、すべてが「地方文化」なのであって、「中央文化」などというものは存在しない。私は、これが「文化」の第一義の要素だと思う。

現在、どこにおいてもそうした地方的なものが求められるようになってきた。地方の草の根的な文化活動は今日、各地できわめて活発である。東京においてさえ、そうである。東京は確かに大都会ではあるけれど、同時に一地方でもある。だから、東京にも東京なりの地方文化がある。例えば最近盛んになっている「三社祭り」であるとか、浅草の「ほおずき市」などは、まさに東京なりの地方文化と言ってよいだろう。

語釈

- ◆ 息づく **自五** ①抑えていた息を大きく吐く。长叹。②ひと休みする。ほっとする。喘息。③息を吐く。呼吸,喘气。●身を寄せ合ってひっそりと～(=生きている)。/相依为命,勉强过活。
- ◆ ^{あた}値する **サ動** それをするだけの値打ちがある、ふさわしい価値がある、相当する。值得。●賞賛に～。/值得赞扬。
- ◆ ^{むりやり}無理矢理 **副** 無理と知りながら、強引に行うさま。強迫,強逼。●～奪う。/強占。
- ◆ トラブル **名** ①もめごと、いざこざ、紛争。纠纷,麻烦,纷争。●金銭上の～を起こす。/发生金钱上的纠纷。②故障、不調。事故,故障。●エンジン～をチェックする。/检查引擎故障。
- ◆ 広がり **名** 広がること。また、広がった所。变宽,扩大。●火の～を防ぐ。/防止火势蔓延。
- ◆ 根づく **自五** ①植えつけた草木が根を張って発育する。生根。●～いたのは僅か一本だ。/只有一棵生根了。②新しい物事が定着する。扎根。●民主主義がしっかりと～。/民主主义牢牢地扎下了根。
- ◆ 草の根 ①隠れて見えない草の根もと。草根。②民衆ひとりひとり。一般大众。政党・結社などの指導者層に対していう語。草根阶层,普通民众。●～運動をする。/举行群众运动。
- ◆ 三社祭り **名** 東京都台東区の浅草寺境内に隣接する浅草神社の例祭。正和元年(1312年)に始まったと伝えられ、本来は3月17、18日の祭りだったが、1872年以降5月17、18日となり、今日ではこの日に近い金曜日から日曜日にかけて行なわれている。東京都台東区浅草神社の例行祭祀活动。

文法解釈

1. 「～も～ば～も」

(1) 在前面的事情上再加上一个同一方向的事物。“既……又……”。

例文 ①明日は数学の試験もあればレポートも提出しなければならないの

で、今晚は寝られそうもない。/明天既有数学考试又必须提交报告，看来今晚睡不成了。

②あの人は性格もよければ頭もよさそうです。/那个人看起来性格好又聪明。

(2) 列举同类事物或对立事物，意为两者兼具。“既……又……”。

例文 ①リンゴにはいろいろな種類があります。赤いのもあれば、黄色いのもあります。/苹果有很多种。既有红的也有黄的。

②楽もあれば苦もあるのが人生というものだ。/有苦有乐才是人生。

2. 「～う(よう)とする」

接在动词意志形之后，表示想要做某事，处在即将开始的状态上或正在努力。“正要……的时候”。

例文 ①お風呂に入ろうとしたとき、電話のベルが鳴った。/正要洗澡的时候，电话铃响了。

②おばあさんが道を渡ろうとしていますが、車が多くて渡れません。/老奶奶要过马路，但是车太多，过不去。

3. 「～ようになる」「～ようにする」的辨析

「～ようになる」和「～ようにする」都表示变化，但其表达的意思和含义是不同的。

例文 ①最近、日本の食事に慣れて、刺身が食べられるようになりました。/最近，习惯了日本饮食，变得能吃生鱼片了。

②できるだけ遅刻しないようにしているけど、ときどき遅れてしまう。/记得尽量要做到不迟到的，但有时还是迟到了。

辨析 「ようになる」表示客观的变化，包括能力、状况、习惯等的变化。“变得……”。「ようにする」表示主观使之发生变化，通常转意为习惯性地记挂着某事。“记得要……”。

練習問題

問1 テーマの「耕作文化」の説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 「耕作」はそんなに簡単な作業ではない、技術を磨かなければならない。
- B 「耕作」を描く文化である。
- C 「文化」は「耕作」と意味が同じである。

D 土地によって耕し方が違って、そこから生まれた文化も違う。

問2 「文化」と植物との類似点は何か。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 文化は植物と同じで、土を耕し、育たなければならない。
- B 文化は植物と同じで、輸入、輸出の制限がある。
- C 文化も植物も別の土地に移植すれば、芽生えできない。
- D 文化は植物と同じで、あるべき土地から切り離されると、本来の様子が変わってしまう。

問3 第四段落の下線部「地方文化」の内容は何か。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 「食」に代表される土地ごとの生き方の形式。
- B その土地土地に息づいている生き方の形式。
- C 別の土地に移植すると形や味わいが変わってしまうような生き方の形式。
- D 植物と同じような生き方の形式。

問4 筆者の主張は何か、最も端的に述べられているのはどの段落なのか、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 第二段落。文化は植物と同じで、本来あるべき土地から切り離されることができない。
- B 第三段落。文化の最も大きな特徴は無理矢理に他の地域に根づかせようとすると、生命力を失ってしまうことである。
- C 第四段落。文化はすべて地方文化である。
- D 第五段落。現在、どこにおいても地方的なものが求められるようになってきた。

実践問題

【本文の検討】

- △第一段落の骨子: _____
- △第二段落の骨子: _____
- △第三段落の骨子: _____
- △第四段落の骨子: _____
- △第五段落の骨子: _____